フジタガンカニュース

Vol.34 2013.7.22

「あー！目が痒いー！！」＼(>_<)/「いつ擦(こす)るの？今でしょ！」って、それ大丈夫？ <後編>

今回のフジタガンカニュースは前回号の続きです。可能であれば、前回号をお読みになってから今回号に取り掛かって下さい。バックナンバーは当院の待合室のどこかに用意がある筈です(なかったら受付に声を掛けてくださいねー)。つまり…

「目は擦っちゃダメー！」

なんですけど、そういう結論という事になると…「では、痒いときにはどうすれば良いのですか？『痒くなっても我慢しろ』は無理な注文だと思うのです!」となりますよね。仰る通り(笑)です。その答えは簡単…

「目薬を使って下さーい！」

です。薬局で購入できる物で構いません。何を買ってよいか迷うのであれば、「ソフトサンティア」という参天製薬の特定の薬効成分・防腐剤の入っていない点眼があるので、それが良いでしょう。価格も控えめです。また、花粉症などアレルギー反応による痒みである事が明らかな場合には「ザジテン」がお勧めです。市販の点眼薬の中で第二世代抗ヒスタミン成分を含むのはこの点眼だけなので、一般論では一番良いはず(個人差もあります)です。そして、それでもダメなら「眼科へ GO！(笑)」という事で考えてください。また、日ごろから痒くなりやすい方については常に点眼を携行することが推奨され、点眼を常用するのであれば副作用を確認する観点からも眼科通院の上での点眼常用が好ましいです。(これも一般論ですが、たまに「薬局の買い薬の目薬を 10 年使っているよ」なんて事を仰る方に遭遇します。しかも、他の疾患で眼科に通院しているのに「疲れ目にはこれがイイって薬局で勧められたからサー」とか…。治療の方針を組み立てるにあたり、他の治療が混入していると診断が誤ることもあり注意が必要なのですが、患者さん本人が「薬局の薬と医者に処方される薬は別物だから…」と勝手に割り切っていて、我々医師の側には情報を上げていただけない(故意に隠しているというわけでは無い)事も多く、そうした「誤解」に治療の邪魔をされる事があるのです。売薬というものは「一時的な症状を緩和するために使用する」というのが前提です。長期に薬剤を連用して症状をごまかしていると…重篤な疾患の見逃しに至ったり、薬剤性の副作用を生じかねません。一般の方は勘違いしがちですが…誤解しないようにしましょう。)という訳で、経済発展を考えると三木谷社長の薬ネット販売解禁に関する発言も結構ですが、実は「消費者が賢い行動をする」という前提が求められる(「売薬でも治癒しない」もしくは「売薬を長期に連用する」場合には、医療機関を受診するべき)わけで、これを突き詰めるとキリがありませんが「厚生労働省が認可した売薬である以上どんな使い方でも 100%安全」という事は無いのです。でも、薬剤師さんに相談したから必ず安全ってこともない(専門家に相談ができるので、ネット販売よりはかなりマシかも？)し、医者にかかったから必ず安全ってこともない(我々は採血などの検査ができるので、もう少しマシかも？)し…言い出すとキリがないなら楽天の社長の言わんとするところもわかりますけどね。でも、結局**楽天が儲かりたいから(+ユーザーの利便性が向上し、仕事が忙しくても薬が簡単に手に入りやすくなる)**こういう話になっていて、薬剤師会は患者の安全性を担保しにくいから(+薬局の売り上げが減るから)言い返していて…どちらも当然の主張なんですけど…個人的には医療に経済面の要素を強く盛り込む(議論の主題に儲け主義を絡める事)と、歴史的に良い結果にならない事が多かったような気がしますけどね。一般企業で働く方は「利益を得る事」が主な目的ですけど、我々は「患者さんの病気を安全に治す事」が本来の目的な訳ですからね、ユーザーの利便が向上して経済が潤えば良しとは言えない訳です。そして、医療は電化製品や CD を売るのとは訳が違う…その理由というのは「医療には不確実な要素が多すぎる」からです。大変申し訳ない話なのですが、病気や症状の治る見込みは予想しにくく、治癒期間やそれに応じた費用、その他の関連事象についても予想が当たらないことは間々あります。なので「再診」をして確認しながらでないと、医療を継続する事は出来ない(☜と僕は思う)のです。よくある「私はお薬だけもらえれば良いのですが…」って、患者さんの発言では「あるある」なキメ台詞なんですけど、それの発言自体が「根本的に誤った思想」(☜と僕は思う)という訳です。医者の私の発言としては「言い訳がましい」かもしれないですけど、これは真実と思います(☜僕個人は…)。反論のある先生もあるでしょうし、僕の医療者としての技能が不十分なだけなのかもしれないので、勿論それについては日々努力をしようと思ってはいるのですけれど…。

また、目が疲れた時に、肩もみ・肩叩きをする要領で「目を揉みほぐす」方ってたまにいらっしゃいます。いかにも効きそうな感じがするのも…素人考えで言えば分らないではありませんが、これは危険です。ハンディタイプの電動マッサージ器ってありますよね。右写真のようなもので、昭和時代から存在する古典的な代物です。日頃から強い目の疲れを感じておられる方の中には、「目を揉みほぐす」刺激に飽き足らなくなって電動マッサージ器で目を刺激する方があります。また、目の疲れに対しての健康グッズの中には微振動を与えるアイマスクなんかも発売されていたりします。振動の程度にもよるので、一概には言えませんが「電動マッサージ器による刺激で白内障を生じた」という眼科の学術論文[※6]は複数報告があり、眼科医の間ではわりとポピュラーな話です。電動マッサージ器が目周囲に禁忌である事は勿論ですが、拡大解釈をすれば「目を揉みほぐす行為や振動を与える行為」にも「目への悪影響があるかもしれない」と考えた方が良いと思うのです。今回の前編・後編のフジタガンカニュースはここでお終いでーす。次号もお楽しみにー(^O^)／。

@@@